

2025年度外国人による

徳島県日本語弁論大会を開催いたしました!

7月20日（日）、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）にて第36回目の「2025年度外国人による日本語弁論大会」を、徳島県及び（公財）徳島県国際交流協会の主催により開催しました。

今回の大会には7か国1地域から14名の方が出場しました。それぞれが日本語で、違いを認め合い学び合うことの大切さや、人とのつながりの尊さ、そして自らの夢について、熱い思いを語ってくれました。

暑い中お越しくくださった皆さま、ありがとうございました！



最優秀賞に輝いたのは、中国ご出身のカク エイナンさん、徳島県議会国際交流議員連盟会長賞を受賞したのはベトナムご出身のカオ ゴック フン ズンさんです。



7か国1地域
14名が
出場



2025年度外国人による徳島県日本語弁論大会 受賞結果



賞	名前	出身	タイトル
最優秀賞	カク エイナン	中国	違いは怖くない —異文化共生への道—
徳島県議会国際交流議員連盟会長賞	カオ ゴック フン ズン	ベトナム	橋はすでにつながっている
阿波銀優秀賞	ランドリアマモンジソア シルヴィ バレンシア	マダガスカル	マダガスカルの名前と日本の名前の文化
徳島大正銀行優秀賞	サイ チコウ	台湾	絆
徳島商工会議所優秀賞	エカティコムキット ナッタキット	タイ	技「ワカリマセン」を隠す
徳島市国際交流協会特別賞	クアン ティ ザイン	ベトナム	介護は私を変えた
徳島市国際交流協会特別賞	マイ ホアン フィ	ベトナム	違いを知り、つながりを育む
徳島市国際交流協会特別賞	サヴィンダー シン	インド	異なる世界をつなぐ架け橋 —シーク教徒の日本留学日記—
努力賞	タリク タルハ	パキスタン	間違いから生まれる、希望のちから
努力賞	バンジャデ ニシャ	ネパール	共生の大切さ—日本とネパールのかけ橋—
努力賞	ワン グイファン	中国	日本で働いた3年間—挑戦、成長、そして感謝—
努力賞	グエン フー タン	ベトナム	「外国人として“人に迷惑をかけない”日本の文化」について
努力賞	リシミタ シヤル	インド	徳島で見つけた心の平和と自分らしさ
努力賞	ヨウ ウリン	中国	言葉の違いをこえて、心をつなぐ私の学び



最優秀賞



タイトル 「違いは怖くない ―異文化共生への道―」

カク エイナン (中国出身)
在日4か月



日本に留学する前、親戚や、なんと母までもがこう言いました。「行かないほうがいいよ。日本人は冷たくて怖いから。」その時、「“怖い”というイメージは、一体どこから来るのだろうか？」と考え始めました。実際に日本人と話したことも、出会ったこともないのに、どうしてそんな印象を持つてしまうのでしょうか。考えてみると、それはテレビのニュースや、噂話から無意識に植えつけられたものでした。「日本は地震が多いし、人も冷たいから、そこに行ってもきっと幸せにはなれないよ。」そんな言葉を聞くたびに、不安になる一方で、「本当にそうなのか、自分の目で確かめたい」という気持ちが強くなっていきました。そして、私は日本への留学を決意しました。

来日後、思いがけず、日本人の優しさに触れることができました。ある日、寮で洗濯機が壊れて、下の階に住むアフリカからの留学生が私の部屋をたずねてきて、「すみません、洗濯していますか？水が私の部屋に漏れています。」と、言いました。私はどうすればいいのか分からず、ただ「本当に申し訳ございません」と繰り返すことしかできませんでした。翌日、学校からメールが届き、すぐに修理に来てくれるという内容でした。まるで、火の中でイライラしていた私に、優しく水をかけてくれたようなありがたさが心に染みしました。この体験をきっかけに、日本人に対するイメージは一気に変わりました。家族にこの話を伝えると、彼らも少しずつ、日本人に対する印象を改めるようになりました。

この出来事を通して改めて感じたのは、ステレオタイプの恐ろしさです。実は、日本でも中国人に対して、あまり良くない印象があると聞きました。「うるさい」「声が大きい」「ルールを守らない」など、メディアに映る一面だけで判断されがちです。日本で外出すると、「日本人ですか？韓国人ですか？」と聞かれることがあります。「中国人です」と答えると、「あまり中国人っぽくないですね」と驚かれることもあります。そのとき、ふと考えました。「中国人っぽくない」とは、どういう意味だろうか？もしかすると、私は彼らの中にある「中国人像」に当てはまっていないだけではないか？しかし、それは中国人が全て同じ性格や行動をするわけではないという、当たり前的事实を見逃している証拠です。本当は、中国にも優しい人、誠実な人、親切な人がたくさんいます。

このように、私たちは「日本人はこうだ」「中国人はこうだ」と、狭い視野で一面的に相手を見て、決めつけてしまうことがあります。でも、実際に会って、話して、接してみないと、本当の姿は分かりません。むしろ、「見たことがないから怖い」「分からないから化け物のように思う」——そんな感情のほうが、ずっと恐ろしいのではないのでしょうか。この「怖さ」こそが、偏見や差別、誤解を生む大きな原因だと思えます。

では、私たちはどうすればいいのでしょうか？私は大学院に入ってから、「日本語教育とは、言語だけでなく文化や価値観の違いに気づくこと」だと学びました。異なる文化背景や母語を持つ学習者に日本語を教えるには、相手の視点に立つことがとても重要です。そして、日常のコミュニケーションでも同じです。たとえ文化に違いがあっても、それを否定せず、尊重する姿勢が人間として最も美しく、尊い行動ではないのでしょうか？また、私たち自身も、「ステレオタイプ」に冗談のようにのっかるのをやめ、相手に対する印象が固定されていないか、自分自身に問いかけていく必要があると感じています。

どんな国の文化にも、どんな人にも、優れている部分もあれば、欠点もあります。でも、それを一方的にラベルを貼って決めつけるのではなく、国と国、人と人が向き合い、違いを認め合い、学び合うこと、その積み重ねこそが、平和で輝かしい世界を作る第一歩なのだと、私は信じています。

ご清聴ありがとうございました。